

片手にソロバン片手にロマン
背中にガマン

平成22年6月号

会社経営において儲けること、お金を残すことが大事であり、儲けるための目安は、損益計算書で損益分岐点比率を80%以下にすることです。お金を残す目安は、自己資本比率を50%以上にして、支払手形をなくすことです。B/SとP/Lをこなぐのは、総資本経常利益率であり、10%以上を目標にしたいものです。会社のソロバンは数字で表現されます。しかし、社長がソロバン計算ばかりでは社員はついてきません。会社には夢やロマンが必要です。会社は何のために存在し、何を目標にしているのか、社員達に未来を、この会社について将来への希望が持てるということを経営者が示してあげなければなりません。ではどうして夢やロマンのある会社創りができるのか、方法はいくつかあると思いますが、絶対必要なものは、経営者やリーダーのガマンではなんでしょうか。我々中小企業は最初から優秀な社員が入ってくることはありません。挨拶もできない言葉遣いも悪く、態度もよくありません。このよくなる人を一人前のしかも大企業にも負けられない人財に育てあげるにはリーダーのガマンしかありません。例えば挨拶の徹底で私達が行っているのは、リーダーが一番最初に出社する。丁寧に挨拶するため、相手の名前を呼び、お互いの手を握り、相手の目を見て、笑顔をつくってするようにしています。全社員とです。毎日です。清掃も毎日、朝礼も毎日です。挨拶、清掃、朝礼は毎日やるから、笑顔、S.S. 理念が浸透するわけです。毎日やり続け社風になることにより、文化になります。毎日やるのと文化ではなく、単なる挨拶、掃除、朝礼と違って、社員は意味もなくやっさいしているわけではなく、マネリになるわけですよ。何のための挨拶、掃除、朝礼かを繰り返し繰り返し説明し先頭に立って実践し、やっさいな社員には本気にあって叱り、やっさいする忍耐強さ、ガマンこそリーダーに求められる資質ではなんでしょうか。大企業の社員は技術的に優秀な方が多いのですが、自分のために働いている人が多いようです。自分のために働いている人に魅力はあまり感じられません。その人のために何かをあげたいとは思いません。私達、中小企業が育成すべき人間は、利を遣う人間ではなく、「信」も大事にする人間です。「徳」のある人間です。その育成は、経営者やリーダーがうしろ姿を見せることではないでしょうか。頭は急にはよくなりません。あきぶめて下さい。しかし人柄は変えられます。最初はどうしようもない連中だと思っただけかもしれませんが、教育しても無馬太だと思っただけかもしれません。しかし誰でも親がおり子がおります。自分もたいした人間ではないことはわかっているはずですよ。ガマンできないはずはありません。挨拶しない人には、自分のほうから頭を下げて挨拶します。仕事も一人前になつたよ辞めていく人もいます。面倒見なと思っただけ、自分を働かせるために親切にしたのだと言って辞めていく社員もいます。思を仇で返す人もいます。それこそこれもガマンです。まともな社員はいつも社長、リーダーの背中を見ています。ガマンして誠実に正直な仕事をしているうしろ姿はお天童様が見えています。経営者、リーダーは、片手にソロバン片手にロマン、背中にガマンの生き方をしたいものです。